

令和2年度

# 川崎市立中学校 学習診断テスト

## 国語科

誤答分析と学習指導上の考察

川崎市教育委員会  
川崎市立中学校長会  
国語科調査委員会

# 国語

## I 作成方針と構成

### 1. 作問にあたって

今年度も「調査の目的」に基づいて基礎・基本の定着の状況を調べるとともに、生徒が問題に取り組み、自ら課題を見つける視点を大切にして出題するように努めた。作問にあたっては、中学校学習指導要領を踏まえ、「令和元年度川崎市立中学校学習診断テスト 誤答分析と学習指導上の考察」で挙げられた課題や全国学力・学習状況調査などの出題のねらいを考慮し、問題を作成した。

また、漢字や文法事項、語句の知識や仮名遣い、文章の把握などを「知識・技能」に、読み取ったことを整理すること、文章中の表現から人物の心情を想像することなどを「思考・判断・表現」に分類した。

・全国学力・学習状況調査は、教科調査の内容として次の2つを示しており、本市診断テストの作問にあたって、問題作成の指針として意識した。

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な問題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

・出題範囲と内容については、新型コロナウイルス感染拡大による臨時休業に伴い、例年より一単元分減らした学習内容を主体とし、漢字の読み、書き、語句の知識や文法、書写、韻文（詩・短歌・俳句）、文学的な文章（小説）、説明的な文章（説明文）、古典（古文）から出題した。ただし、1学年の古典、2・3学年の書写は出題しなかった。昨年度まで実施の「聞き取り問題」はやめ、話し合いの一部を文章化した「話す・聞く」に関する質問に改め、「話す・聞く」の力の定着状況の把握を図った。

・平成25年度から実施している「読む力」を問う問題では、文学的な文章及び説明的な文章から、字数制限・一文を条件とした記述式の出題を今年度も継続した。また、今年度も2学年で、「書く力」を問うものとして、提示された資料を読み取り、条件にあった文章を記述する問題を出題した。

なお、文学的な文章と説明的な文章の選定にあたっては、文字数や使用されている語句の難易度、続きを読みたくなるような作品であることなど複数の選定基準を設定し、多数の候補作品の中から吟味したうえで問題文にする作品を決定した。

今年度も、「問題に粘り強く取り組むことの大切さを学び、国語の学習を通して確かな言葉の力を身に付けるとともに、新たな発見や課題解決に取り組む前向きな心を育ててほしい」という作問委員の思いを形にするように心がけ、問題の作成にあたった。

## 2. 出題のねらい

	1 年	2 年	3 年
問一	<p>●言語事項に関する基礎的な知識が身についているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の漢字について読字、書字ができるか。</li> <li>・言葉の単位が理解できるか。</li> <li>・漢字の部分の呼び名が理解できるか。</li> </ul>	<p>●言語事項に関する基礎的な知識が身についているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の漢字について読字、書字ができるか。</li> <li>・単語が理解できるか。</li> <li>・主語と述語の関係が理解できるか。</li> <li>・類義語が理解できるか。</li> </ul>	<p>●言語事項に関する基礎的な知識が身についているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の漢字について読字、書字ができるか。</li> <li>・同訓異字が理解できるか。</li> <li>・助動詞の働きや意味が理解できるか。</li> <li>・連体詞と形容動詞の識別ができるか。</li> </ul>
問二	<p>●書写における楷書の書き方が身についているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい筆順を理解しているか。</li> <li>・楷書の書き方を適切に理解しているか。</li> </ul>	<p>●話し合いの一部から次の展開を予測できているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの進め方を理解しているか。</li> <li>・話し合いの展開を理解しているか。</li> </ul>	<p>●インタビューの一部から次の展開を予測できるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューの進め方を理解しているか。</li> <li>・発言者の質問の意図を理解しているか。</li> </ul>
問三	<p>●話し合いの一部から次の展開を予測できているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの進め方を理解しているか。</li> <li>・話し合いの展開を理解しているか。</li> </ul>	<p>●短歌の内容を理解し、的確に鑑賞することができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容の理解と的確な鑑賞ができるか。</li> <li>・言葉のつながりや意味のまとまりから短歌を適切に区切ることができるか。</li> </ul>	<p>●俳句の内容を理解し、的確に鑑賞することができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容の理解と的確な鑑賞ができるか。</li> <li>・季語、季節を把握、理解ができるか。</li> </ul>
問四	<p>●詩の内容を理解し、的確に鑑賞することができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容の理解と的確な鑑賞ができるか。</li> <li>・詩中の語句の使い方について理解できるか。</li> <li>・表現上の特色が理解できるか。</li> </ul>	<p>●文学的文章の読解ができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の心情を読み取ることができるか。</li> <li>・内容の理解、把握ができるか。</li> <li>・文章を的確に読み取り、条件を満たして記述することができるか。</li> <li>・人物像を的確に把握できるか。</li> </ul>	<p>●文学的文章の読解ができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容の理解、把握ができるか。</li> <li>・登場人物の心情を読み取ることができるか。</li> <li>・文章を的確に読み取り、条件を満たして記述することができるか。</li> <li>・文章の表現の特徴を的確に把握できるか。</li> </ul>
問五	<p>●文学的文章の読解ができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の心情を読み取ることができるか。</li> <li>・文章を的確に読み取り、条件を満たして記述することができるか。</li> <li>・内容の理解、把握ができるか。</li> <li>・登場人物の特徴をとらえることができるか。</li> </ul>	<p>●説明的文章の読解ができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文のつながりを理解することができるか。</li> <li>・接続語を理解し、文章相互の関係をとらえることができるか。</li> <li>・内容の理解、把握ができるか。</li> </ul>	<p>●説明的文章の読解ができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適切に接続語を選ぶことができるか。</li> <li>・文のつながりを理解することができるか。</li> <li>・内容の理解、把握ができるか。</li> <li>・文章を的確に読み取り、条件を満たして記述することができるか。</li> </ul>
問六	<p>●説明的文章の読解ができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・接続語を理解し、文章相互の関係をとらえることができるか。</li> <li>・文のつながりを理解することができるか。</li> <li>・内容の理解、把握ができるか。</li> <li>・文章を的確に読み取り、条件を満たして記述することができるか。</li> </ul>	<p>●古典の読解ができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的かなづかいを正しく理解しているか。</li> <li>・主語の把握ができるか。</li> <li>・地の文と会話文を識別できるか。</li> <li>・内容の理解、把握ができるか。</li> </ul>	<p>●古典の読解ができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地の文と会話文を識別できるか。</li> <li>・歴史的かなづかいを正しく理解しているか。</li> <li>・内容の理解、把握ができるか。</li> <li>・主語の把握ができるか。</li> </ul>
問七		<p>●目的を理解し、条件に沿って記述することができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・条件を満たして、文章を書くことができるか。</li> <li>・目的に沿って作文できるか。</li> </ul>	

# Ⅱ 第1学年の結果と分析

## 1. 小問別の問題内容と結果正答率【国語 第1学年】

問題番号		趣旨		話・聞	書	読	言	問題の内容	出題のねらい	正答率(%)	無答率
大問	小問	知・技	思・判・表								
1	(ア)1	○					◎	①漢字の読み	既習の漢字について、正しく音読みできるか。	95	2
	(ア)2	○					◎		既習の漢字について、正しく音読みできるか。	71	8
	(ア)3	○					◎		既習の漢字について、正しく音読みできるか。	97	1
	(ア)4	○					◎		既習の漢字について、正しく訓読みできるか。	97	2
	(ア)5	○					◎		既習の漢字について、正しく訓読みできるか。	96	2
	(イ)1	○					◎	②漢字の書き	既習の漢字について、正しく書くことができるか。	79	4
	(イ)2	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	70	13
	(イ)3	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	88	6
	(イ)4	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	56	16
	(イ)5	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	73	23
	(ウ)	○					◎	③言葉に関する知識	言葉の単位が理解できるか。	59	0
	(エ)	○					◎		言葉の単位が理解できるか。	84	1
	(オ)	○					◎		漢字の部分の呼び名が理解できるか。	72	18
2	(ア)	○					◎	④書写に関する知識	正しい筆順を理解しているか。	27	0
	(イ)	○					◎		楷書の書き方を適切に理解しているか。	82	0
3	(ア)		○	◎				⑤話す・聞くに関する理解	話し合いの進め方を理解しているか。	66	1
	(イ)		○	◎					話し合いの展開を理解しているか。	92	0
	(ウ)		○	◎					話し合いの展開を理解しているか。	97	0
4	(ア)		○				◎	⑥詩の読み取り	内容の理解と的確な鑑賞ができるか。	73	1
	(イ)		○				◎		詩中の語句の使い方について理解できるか。	73	5
	(ウ)		○				◎		内容の理解と的確な鑑賞ができるか。	91	0
	(エ)		○				◎		表現上の特色が理解できるか。	85	0
5	(ア)		○				◎	⑦文学的な文章の読み取り	登場人物の心情を読み取ることができるか。	95	0
	(イ)		○				◎		登場人物の心情を読み取ることができるか。	83	0
	(ウ)		○				◎		文章を的確に読み取り、条件を満たして記述することができるか。	48	10
	(エ)		○				◎		内容の理解・把握ができるか。	85	1
	(オ)		○				◎		登場人物の特徴を読み取ることができるか。	78	0
6	(ア)		○				◎	⑧説明的な文章の読み取り	接続語を理解し、文章相互の関係をとらえることができるか。	68	2
	(イ)		○				◎		文のつながりを理解することができるか。	47	1
	(ウ)		○				◎		内容の理解・把握ができるか。	93	1
	(エ)		○				◎		内容の理解・把握ができるか。	48	1
	(オ)		○				◎		文章を的確に読み取り、条件を満たして記述することができるか。	64	8
	(カ)		○				◎		内容の理解・把握ができるか。	67	4

◎…主たる観点

平均正答率(%)	
知識・技能	76.4
思考・判断・表現	75.2

## 2. 主な誤答と分析【国語 第1学年】

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答 (%)	授業改善への手だて			
1	(ア)	1	しゅうしょく	95	2	てんしょく 表記の誤り	2 1	大問1では、言語に関する基礎的な知識が身に付いているかが問われた。小問アは、既習の漢字についての読字だが、日常生活で多く目にする漢字は相当数の生徒が正しく読めている。しかし、「尊厳」の誤読が多い。「尊厳」は、日常生活であまり使用する機会がないことから、誤答が多かったと思われる。 今後の学習では、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で語句を使用する活動を行い、語感を磨き、語彙を定着していくことが求められる。 (平均正答率 91.2%)	
		2	そんげん	71	8	そんけい そんげき けいれい など 表記の誤り	7 6 8		
		3	ほきゅう	97	1		2		
		4	はら (う)	97	2	表記の誤り	1		
		5	なが (める)	96	2	表記の誤り	2		
	(イ)	1	栄養	79	4	○養、栄○ 養栄 表記の誤り	9 2 6	小問イは、昨年同様、小学校で既習した漢字についての書字であった。「栄養」「便利」のように日常的によく使われる漢字は概ね定着していることが分かる。一方、「束ねる」「率いる」の無答率が高く、誤答も多い。特に「率いる」に関しては、音が似ている「引」、漢字の形が似ている「卒」の誤答が多かった。「収束」「率先」などの熟語を成り立たせている漢字の意味と訓読みを理解していないことが分かった。 今後の学習では、熟語の成り立ちを考えながら意識的に漢字を書く機会を増やしたり、訓読みを含む既習漢字を活用したりするなかで確実な定着を図ることが必要である。 (平均正答率 73.2%)	
		2	報告	70	13	○告 放告 表記の誤り	5 3 9		
		3	便利	88	6	○利 表記の誤り	3 3		
		4	率 (いる)	56	16	引 卒 など 表記の誤り	7 8 13		
		5	束 (ねる)	73	23	紡 立 表記の誤り	1 1 2		
	(ウ)	5		59	0	4 3 6	22 10 9	小問ウは、文章を正確に文に分ける問題であったが、正答率は昨年より高いものの、やはり課題が見られる結果であった。少なめに数えてしまう傾向にあり、今後の学習では、文の主語・述語・修飾語・被修飾語などはどれに当たるかを考えながら正確に文章を読む必要があると考えられる。小問エは、一文を文節に区切る問題であり、文法の基礎的な知識の活用ができていないことが分かる。 (平均正答率 71.6%)	
	(エ)	6		84	1	5 3 7 11	10 2 2 1		
	(オ)	たけかんむり	72	18	くさかんむり ごんべん しんによ、てへん など	3 2 5			
	2	(ア)	1		27	0	2 3 4	35 26 12	小問アは、筆順を問う問題であった。出題されたのは小学校での既習の漢字であったが、低い正答率であった。 今後の学習では、筆順を意識して文字を書けるよう、漢字の筆順にも触れて指導していく必要がある。 (平均正答率 54.5%)
		(イ)	3		82	0	4 1 2	8 6 4	
3	(ア)	4		66	1	2 3 1	17 10 6	大問3は、話し合いの一部から「話すこと・聞くこと」の力が問われた。小問アは、司会者の話し合いの進め方を正確に理解する問題だったが、正答率はあまり高くなかった。これは話し合いのルールや目的の理解度が、実際の話し合い活動の経験不足から低かったことが原因と考えられる。 今後の学習では、相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるような学習活動の機会が必要である。 (平均正答率 85.0%)	
	(イ)	3		92	0	2 4	6 2		
	(ウ)	学級目標	97	0	一致団結 スクラム 松本さん	1 1 1			

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
4	(ア)	1	73	1	2 4	18 8	大問4は、詩の内容を理解し、的確に鑑賞する力が問われた。昨年度に比べて平均正答率が約22%高くなっており、全てひらがな表記の詩であることから様子を思い浮かべやすく、作品を理解しやすかったと思われる。しかし、小問ア・イは、他と比べると正答率が低かった。どちらも作者の目に映る「あしあと」がこの詩の中心になっていることが分かれば解ける問題であるが、そこを押さえきれなかったと考えられる。 今後の学習では、詩の主題や作者のメッセージなどを、根拠を明確にして読み取るとともに、考えを交流することで深めていく必要がある。 (平均正答率 80.5%)
	(イ)	はだしのあしあと	73	5	かわいいあかんぼ ちいさなみずとり にこにこしたかお みずとりあかんぼ など	4 4 4 10	
	(ウ)	4	91	0	2 3 1	4 4 4 1	
	(エ)	2	85	0	4 1 3	9 3 3	
5	(ア)	2	95	0	1 4	4 1	大問5は、文学的な文章から登場人物の心情や状況を読み取る力が問われた。登場人物の心情や人物像を問う問題の正答率は概ね良好で、場面と場面、場面と描写などを結び付けて読む等、文学的な文章の読解力がついてきていることが分かる。小問ウは、条件を満たして記述する力を問うものであり、正答率が48%で他の設問に比べ極めて低かった。内容は捉えているが文として適切な表現となっていない生徒が27%と非常に多く、日頃から文章を書く機会をもたせる取組が求められる。 今後の学習では、文章を読んで理解したことを具体的な文字数やキーワードの指定に即して「書く」活動を適宜取り入れ、アドバイスや添削をしていくことが考えられる。 (平均正答率 77.8%)
	(イ)	4	83	0	2 3 1	10 5 2	
	(ウ)	(雅之君に) 視野を広げて、自分のスタイルを探してほしいと伝えたかった(から。)	48	10	B C(無答以外)	27 15	
	(エ)	3	85	1	4 2 1	7 5 2	
	(オ)	2	78	0	1 3 4	16 3 3	
6	(ア)	4	68	2	3 1 2	18 10 2	大問6は、説明的な文章を読み解く力が問われた。昨年同様、今年度も大問5の文学的文章よりも10ポイント程度低い正答率となっている。内容の難易度は高くないが、外国の人物名や専門用語もあり、語句の難易度が高いことから、理解しにくかったのだろうと考えられる。小問イ、エの正答率は他に比べて低かった。小問イは、抜けている一文の正しい箇所を問う問題であるが、前の内容の例示である一文を正確な場所に入れることができておらず、前後の文の関係を考えられるようにする必要がある。小問エは、内容を理解する問題であるが、特に4の誤答が多く、「出来事の起きた順」という、文章に書かれていないことまで読み取りを飛躍してしまったと考えられる。 今後の学習では、筆者の主張をどのような展開で組み立てているのか、筆者の主張の中心はどこなのかを意識しながら文章を読むことが必要である。 (平均正答率 64.5%)
	(イ)	C	47	1	b a d など	18 17 17	
	(ウ)	1	93	1	3 4	5 1	
	(エ)	3	48	1	4 2 1	38 8 5	
	(オ)	記憶というのは、その人にとって価値があるもの(と考えている。)	64	8	B C(無答以外)	10 18	
	(カ)	2	67	4	1 4 3	17 8 4	

# Ⅲ 第2学年の結果と分析

## 1. 小問別の問題内容と結果正答率【国語 第2学年】

問題番号		趣旨					問題の内容	出題のねらい	正答率(%)	無答率	
大問	小問	知・技	思・判・表	話・聞	書	読					言
1	(ア)1	○					◎	①漢字の読み	既習の漢字について、正しく音読みできるか。	97	1
	(ア)2	○					◎		既習の漢字について、正しく音読みできるか。	94	2
	(ア)3	○					◎		既習の漢字について、正しく音読みできるか。	97	1
	(ア)4	○					◎		既習の漢字について、正しく訓読みできるか。	94	1
	(ア)5	○					◎		既習の漢字について、正しく訓読みできるか。	99	1
	(イ)1	○					◎	②漢字の書き	既習の漢字について、正しく書くことができるか。	33	27
	(イ)2	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	31	34
	(イ)3	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	62	19
	(イ)4	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	45	22
	(イ)5	○					◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	59	25
	(ウ)	○					◎	③言葉に関する知識	単語が理解できるか。	46	0
	(エ)	○					◎		主語、述語の関係が理解できるか。	64	0
	(オ)	○					◎		類義語が理解できるか。	78	0
2	(ア)	○	◎					④話す・聞くに関する理解	話し合いの進め方を理解しているか。	50	0
	(イ)	○	◎						話し合いの展開を理解しているか。	70	9
	(ウ)	○	◎						話し合いの展開を理解しているか。	58	1
3	(ア)	○				◎		⑤短歌の鑑賞	言葉のつながりや意味のまとまりから短歌を適切に区切ることができるか。	65	1
	(イ)	○				◎			内容の理解と的確な鑑賞ができるか。	72	0
	(ウ)	○				◎			内容の理解と的確な鑑賞ができるか。	54	1
4	(ア)	○				◎		⑥文学的な文章の読み取り	登場人物の心情を読み取ることができるか。	90	0
	(イ)	○				◎			内容の理解・把握ができるか。	84	1
	(ウ)	○				◎			文章を的確に読み取り、条件を満たして記述することができるか。	18	14
	(エ)	○				◎			内容の理解・把握ができるか。	70	1
	(オ)	○				◎			登場人物の心情を読み取ることができるか。	58	1
	(カ)	○				◎			人物像を的確に把握できるか。	65	1
5	(ア)	○				◎		⑦説明的な文章の読み取り	接続語を理解し、文章相互の関係をとらえることができるか。	85	1
	(イ)	○				◎			文のつながりを理解することができるか。	55	1
	(ウ)	○				◎			内容の理解・把握ができるか。	76	1
	(エ)	○				◎			内容の理解・把握ができるか。	51	1
	(オ)	○				◎			内容の理解・把握ができるか。	67	2
	(カ)A	○				◎			内容の理解・把握ができるか。	68	16
	(カ)B	○				◎			内容の理解・把握ができるか。	72	20
6	(ア)	○				◎		⑧古典の読解	地の文と会話文を識別できるか。	28	22
	(イ)	○				◎			歴史的かなづかいを正しく理解しているか。	78	8
	(ウ)	○				◎			主語の把握ができるか。	40	3
	(エ)	○				◎			内容の理解・把握ができるか。	58	4
	(オ)	○				◎			内容の理解・把握ができるか。	57	5
7		○				◎		⑨記述式問題	条件を満たして、文章を書くことができるか。目的に沿って作文できるか。	40	15

◎…主たる観点

平均正答率(%)	
知識・技能	69.8
思考・判断・表現	60.4

## 2. 主な誤答と分析【国語 第2学年】

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答 (%)	授業改善への手だて	
1	(ア)	1 いらい	97	1	「い」の字崩れ	2	<p>大問1では、言語に関する基礎的な知識が身につけているかが問われた。小問アは、既習の漢字についての読字だが、全体的に無回答が少なく、正答率も高かった。どれも日常生活で多く目にするものであることが要因と思われる。</p> <p>今後の学習では、時には教科書だけではなく便覧などを利用しながら、様々な言葉に触れる機会を多く作り、語彙を増やしていく必要がある。(平均正答率 96.2%)</p>
		2 かいたく	94	2	かいせつ かいちく かいてき・かわさき	1 1 3	
		3 ていねい	97	1	「ね」の字崩れ ていちよう	1 1	
		4 お(しむ)	94	1	かな むな くや・くる・つつ	2 1 2	
		5 ふ(れる)	99	1	む・ふれ・字形	1	
	(イ)	1 精算	33	27	清算 生産 表記の誤り	22 8 10	<p>小問イは既習の漢字についての書字だが、昨年度よりも正答率は低い結果となった。誤答では「清算」「努める」をはじめ、適切な同音・同訓異義語を書くことができていないことがわかる。</p> <p>今後の学習では、同音・同訓異義語など様々な漢字に触れる機会を授業の中で増やし、日常生活にも生かしながら学習することで漢字の定着を図っていく必要がある。(平均正答率 45.9%)</p>
		2 規制	31	34	機制 規○ 字形・帰省 表記の誤り	6 4 15 10	
		3 警告	62	19	警○ 「警」の誤字 表記の誤り	2 2 15	
		4 務(める)	45	22	努・勤 表記の誤り	23 10	
		5 盛(ん)	59	25	産 栄 その他	11 3 2	
	(ウ)	8	46	0	7 6 4	41 8 4	<p>小問ウの正確に単語に分ける問題の正答率は、昨年よりは約10ポイント高いものの、やはり低い数値となった。誤答のほとんどが「7」を選択していることから、「決まった」を正確に単語に分けられなかったことが考えられる。単語の定義や分け方など、「単語の種類」を学習する際には振り返りを行い、繰り返し丁寧に指導する必要がある。また、小問エの文から正しい主語を見つける問題では、修飾語を選ぶ誤答が多かった。</p> <p>授業においても、日常的に文法を意識させながら学習を進め、定着させていく必要がある。(平均正答率 62.6%)</p>
	(エ)	2	64	0	4 3 2	28 6 1	
	(オ)	3	78	0	4 2 1	11 8 3	



大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
2	(ア)	3	50	0	2 4 1	30 10 10	<p>大問2は、「三年生を送る会」について生徒会で話し合っている様子を題材にしたもので、話し合いの進め方を捉えることや、次の話し合いでの議題の内容を捉える能力が問われた。小問イは、話し合いの内容を理解しメモを参考にしながら、足りない情報を確認する問いであったが、正答率が低かった。話し合いの注意点を理解していないことや、メモや提案の理由を確認していないことが要因として挙げられる。</p> <p>話し合い活動を充実したものにするためには、相手の話に耳を傾け、その意図を捉え相手の伝えたいことを正確に理解する姿勢が大切である。このような姿勢の重要性を理解し、話すこと聞くことを関連させた学習や取組の工夫を行っていく必要がある。</p> <p>(平均正答率 59.3%)</p>
	(イ)	よいと思う理由	70	9	提案した理由 意見に対しての理由 その他	2 2 15	
	(ウ)	2	58	1	1 4 3	32 7 2	
3	(ア)	3	65	1	2 4 1	22 7 6	<p>大問3は、短歌の内容を理解し的確に鑑賞する能力が問われた。昨年度と比べるとどの設問も正答率は低い結果となった。学校生活を題材にした共感しやすい昨年度の作品と比べると、日常生活を通して共感したり・想像したりしづらかったため、内容を捉えにくく感じたのだろう。小問イは、季節にあった短歌を選ぶ問いであったが、正答率は72%で約3割の生徒は「雷雲」という言葉から夏を連想できなかったことが考えられる。小問ウは、鑑賞文から適切な短歌を選ぶ問題であった。鑑賞文の「思わず口からもれた、言葉にならない音」という記述から「はふはふ」という言葉を連想できなかったようである。</p> <p>今後の学習では、教科書内に出てくる短歌だけでなく多くの短歌に触れ、短歌から想像できる情景を多面的に捉えられるよう、学習や取組の工夫を意図的にしていく必要がある。</p> <p>(平均正答率 64.0%)</p>
	(イ)	6	72	0	4 7 5	15 10 2	
	(ウ)	5	54	1	3 1 2	29 8 7	

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
4	(ア)	3	90	0	1 2 4	6 3 1	<p>大問4は、中学2年生の少女を主人公とした文学的な文章から登場人物の心情や状況を読み取る力が問われた。同年代が主人公であり、心情が想像しやすそうだが、正答率は全体的に昨年度よりも低い結果となった。</p> <p>小問ウは、他と比べると極端に正答率が低かった。要因として、問題文の『「その人」をとりまく状況をふまえ』という言葉にとらわれてしまい、昔と現在の「その人」の状況の変化を読み取り、的確に文章で表現ができなかったことが考えられる。</p> <p>小問オは、主人公の心情を問うものであった。主人公と登場人物のつながりを、会話文などの叙述や行動から正確に理解できていないようである。</p> <p>今後の学習では、文学的文章では会話と会話のつながりを意識して読むことの大切さを指導したい。また、文を書くことに苦手意識をもたないように、日頃から文章を書く機会を多く設定し、指導を継続していきたい。さらに、主人公の心情を場面ごとに一文で表すなどの活動を取り入れてみることも考えられる。</p> <p>(平均正答率 64.1%)</p>
	(イ)	2	84	1	1 4 3	7 5 3	
	(ウ)	(昔は静香と同じように)他人とかかわりたくなかったが、今はひとりぼっちに(なってしまったから。)	18	14	かかわりをもっていたのに大学では…	68	
	(エ)	4	70	1	1 3 2	13 12 4	
	(オ)	2	58	1	1 3 4	22 16 3	
	(カ)	1	65	1	3 4 2	16 14 4	
5	(ア)	4	85	1	1 2 3	7 5 2	<p>大問5は、説明的な文章を読み解く力が問われた。小問エは、文章の内容を的確に理解しているかどうか問われた。誤答の内容からみると、問題文に対する適切な根拠を見つけられなかった生徒が多かったことが考えられる。小問イは、小問エの次に正答率が低かった。この問題は、抜けている一文の正しい箇所を問う問題であるが、問題提起の一文を正確な箇所に入れることができていない。今後も文章のつながりや、その文や段落の役割を考えられるような指導を継続していく必要がある。</p> <p>今後の学習では、段落ごとのつながりを把握させるために、接続語や文章表現に注目させたり、本文中のキーワードを意識しながら文章を読ませたりすることが必要である。また、文章全体を捉えられるよう、文章の要旨をまとめて表現する活動などを取り入れていくことも大切である。</p> <p>(平均正答率 67.7%)</p>
	(イ)	b	55	1	a c d	23 13 7	
	(ウ)	1	76	1	2 3 4	9 7 7	
	(エ)	1	51	1	2 4 3	26 12 10	
	(オ)	4	67	2	3 2 1	13 13 5	
	(カ)	A	共生関係	68	16	相思相愛 パートナー かんけい その他	
	B	花粉を運んでくれる	72	20	花粉を運んでもらう 一緒に進化する その他	4 1 3	

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答 (%)	授業改善への手だて	
6	(ア)	異な ～ えぬ	28	22	異な～じや ゐ中～ぬよ いや～たる その他	16 12 2 20	大問6は古文の読み取りである。本文自体は短い、読み慣れていないせいか正答率は全体的に低かった。 小問アは会話文と地の文の見分けだったが正答率は低かった。昨年度も課題として挙げられているが、古文の会話文の特徴などについて、再度確認する必要がある。小問ウは、主語を確認する問題であったが、昨年度よりも14ポイント正答率が低かった。登場人物の確認や、誰の動作・言葉なのかを文章を読みながら正確に捉える力が求められる。 今後古文の学習では、多くの作品に触れ、声に出して古文に親しむ心を育み、意欲的に学ぶ姿勢を養う必要がある。その中で、主語や助詞の省略などを理解し、適切に文章を読み解く習慣を身につけられる指導を継続的に行うことが大切である。 (平均解答率 52.2%)
	(イ)	つかいければ	78	8	使えば つかなければ その他	10 1 3	
	(ウ)	1	40	3	3 2 4	42 12 3	
	(エ)	2	58	4	1 4 3	15 15 8	
	(オ)	4	57	5	3 1 2	15 13 10	
7		模範解答参照	40	15	B C(無答以外)	23 22	大問7は、資料を活用して条件に合った文章を書く問題であった。「自分の本音を伝えやすい手段・方法は何か」について自分の意見を書くという身近な題材であったが、正答率は昨年度から18ポイント低かった。また、約2割は全ての条件を満たして解答することができているが、文章表現として適切な表現ができていなかった。さらに、Cの解答の中には、自分の意見だけを書いたりアンケート結果の分析をして終わっていたりする解答も目立った。 文章表現として適切でない解答も多く、文章を書く際に条件をはじめ、何を意識して文章を書くのかを明確にする必要がある。さらに、話し言葉と書き言葉の違いや特性、原稿用紙の使い方など基本的な知識を丁寧に指導し、継続的に「書く」場面を授業の中で設定していく必要がある。 (平均解答率 40.0%)

# IV 第3学年の結果と分析

## 1. 小問別の問題内容と結果正答率【国語 第3学年】

大問	問題番号	趣旨		話・聞	書	読	言	問題の内容	出題のねらい	正答率(%)	無答率	
		知・技	思・判・表									
1	(ア)1	○					◎	①漢字の読み	既習の漢字について、正しく音読みできるか。	96	2	
	(ア)2	○					◎		既習の漢字について、正しく音読みできるか。	91	1	
	(ア)3	○					◎		既習の漢字について、正しく音読みできるか。	73	7	
	(ア)4	○					◎		既習の漢字について、正しく訓読みできるか。	87	6	
	(ア)5	○					◎		既習の漢字について、正しく訓読みできるか。	77	1	
	(イ)1	○						◎	②漢字の書き	既習の漢字について、正しく書くことができるか。	63	9
	(イ)2	○					◎	既習の漢字について、正しく書くことができるか。		76	10	
	(イ)3	○						◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	64	20
	(イ)4	○						◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	75	10
	(イ)5	○						◎		既習の漢字について、正しく書くことができるか。	51	7
	(ウ)	○						◎	③言葉に関する知識	同訓異字が理解できるか。	71	0
	(エ)	○					◎	助動詞の働きや意味が理解できるか。		79	0	
	(オ)	○						◎		連体詞と形容動詞の識別ができるか。	46	0
2	(ア)		○	◎				④話す・聞くに関する理解	インタビューの進め方を理解しているか。	88	0	
	(イ)		○	◎					インタビューの進め方を理解しているか。	90	0	
	(ウ)		○	◎					発言者の質問の意図を理解しているか。	80	0	
3	(ア)	○					◎	⑤俳句の鑑賞	季語、季節を理解できるか。	74	0	
	(イ)	○					◎		内容の理解と的確な鑑賞ができるか。	77	0	
	(ウ)1	○					◎		内容の理解と的確な鑑賞ができるか。	93	0	
	(ウ)2	○					◎		内容の理解と的確な鑑賞ができるか。	50	0	
	(ウ)3	○					◎		内容の理解と的確な鑑賞ができるか。	68	1	
	(ウ)4	○					◎		内容の理解と的確な鑑賞ができるか。	93	1	
4	(ア)	○					◎	⑥文学的な文章の読み取り	登場人物の心情を読み取ることができるか。	68	1	
	(イ)	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	93	1	
	(ウ)	○					◎		文章を的確に読み取り、条件を満たして記述することができるか。	46	7	
	(エ)	○					◎		登場人物の心情を読み取ることができるか。	84	3	
	(オ)	○					◎		文章の表現の特徴を的確に把握できるか。	64	3	
5	(ア)	○					◎	⑦論理的な文章の読み取り	適切に接続語を選ぶことができるか。	91	1	
	(イ)	○					◎		文のつながりを理解することができるか。	62	2	
	(ウ)	○					◎		文章を的確に読み取り、条件を満たして記述することができるか。	52	12	
	(エ)	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	63	1	
	(オ)	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	84	1	
	(カ)	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	65	1	
6	(ア)	○					◎	⑧古典の読解	歴史的かなづかいを正しく理解しているか。	70	2	
	(イ)	○					◎		主語の把握ができるか。	51	1	
	(ウ)	○					◎		地の文と会話文を識別できるか。	34	9	
	(エ)	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	46	0	
	(オ)	○					◎		内容の理解・把握ができるか。	28	1	

◎…主たる観点

平均正答率(%)	
知識・技能	72.8
思考・判断・表現	68.5

## 2. 主な誤答と分析【国語 第3学年】

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答 (%)	授業改善への手だて		
1	(ア)	1 りんかく	96	2	わ○ など	2	<p>大問1は、言語に関する力を問うものであった。前年度と比較し、正答率は同程度であった。小問アは、既習漢字の読字だが、日常生活でよく使う語句は相当数の生徒が正しく読めている。しかし、「携わる」のように、「携帯」という熟語の一部としては目にする漢字であっても、それとは異なる読み方を問われると正答率が下がる傾向にある。また、「佳境」のように中学生が日常であまり用いる機会のない語句に関しても正答率が下がる。</p> <p>まずは、様々な文章に触れる中で、知らない言葉が出てきたときに習慣的に辞書を活用するなどして、身に付けるよう促すことを心がけたい。 (平均正答率 84.8%)</p> <p>小問イは、既習漢字の書字である。「演」を「寅」、「射」を「射」、「破」を「被」と解答するなど漢字の形として何となく覚えてはいるものの、細かいところまでは覚えていないことがうかがえる。また、「映す」を「写す」と答えるなど同訓異字に関しても理解が不十分であった。</p> <p>学んだ漢字を活用する中で定着を図ることが必要である。 (平均正答率 65.8%)</p> <p>小問オは、昨年に引き続き連体詞と形容動詞の識別の問題であった。正答率が昨年度は63%であったのに対し、今年度は46%であった。臨時休校等の影響で、基本的な品詞の特徴の定着を図る時間が少なかった可能性も考えられるが、他の単元や日常生活でも継続的に定着を図るなど、限られた時間の中で、言語事項の学習を定着させる工夫が必要となる。 (平均正答率 65.3%)</p> <p>今年度は聞き取り形式でなく、文章を読んで質問の意図や話の進め方について解答する新たな形式であった。大問2の平均正答率は、昨年度の80.2%と比べて、上昇している。聞き取り形式では、話がどんどん進行して聞き返せないのに対し、今年度の形式では、再度確認できるからだと推察される。小問ウの正答率が他よりやや低いのは、発言の細かい内容まで理解することが必要だったためと思われる。漠然と全体像を捉えるだけでなく、問いの本質を見抜く指導が必要であると考える。 (平均正答率 86.0%)</p>	
		2 ばくろ	91	1	ぼうろ はくろ ぼう○ など	4 2 2		
		3 かきよう	73	7	けいきよう けつきよう ○きよう など	7 3 10		
		4 つつし(む)	87	6	こば この ひる など	2 1 4		
		5 たずさ(わる)	77	1	くわ たづさ そな など	9 1 12		
	(イ)	1 演奏	63	9	演○ 寅奏 など 表記の誤り	2 1 25		
		2 謝罪	76	10	謝○ 射○ など 表記の誤り	3 3 8		
		3 簡易	64	20	簡意 簡○ など 表記の誤り	4 6 6		
		4 破(る)	75	10	被 敗 など 表記の誤り	5 1 9		
		5 映(す)	51	7	写 表記の誤り など	34 8		
	(ウ)	3	71	0	4 1 2	14 9 6		
	(エ)	1	79	0	2 3 4	12 6 3		
	(オ)	4	46	0	2 1 3	36 12 6		
	2	(ア)	3	88	0	2 1		7 5
		(イ)	1	90	0	3 4 2		6 3 1
(ウ)		2	80	0	1 3 4	9 9 2		

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて	
3	(ア)	3	74	0	5 2 6 など	10 6 10	大問3は、俳句の鑑賞の問題で、内容の理解と的確な鑑賞ができるかを問うものであった。小問ウは、1「おだやかで規則的な音」から「時計」、4「瞬間の鳴き声」から「蝉」、のように、俳句の中に読みこまれているものがはっきりわかるような言葉がある問いの正答率が高いが、曖昧な表現である2、3の正答率はそれに比べて低い。俳句全体の内容を理解するには至っていないのではないかと推察される。 俳句にふれる際、季語はもちろんのこと、作者は何に感動してその俳句を作ったのかということにも思いを馳せ、作品を鑑賞する姿勢を養う必要がある。 (平均正答率 75.8%)	
	(イ)	2	77	0	7 5 3 など	8 6 9		
	(ウ)	1	7	93	0	2 3 4 など		3 2 2
		2	5	50	0	1 3 2 など		21 13 16
		3	6	68	1	2 3 4 など		18 8 5
	4	4	93	1	4 3 1 など	3 2 1		
4	(ア)	4	68	1	2 3 1	16 10 5	大問4は、文学的な文章から登場人物の心情を問う問題であった。小問アは、登場人物の言葉から気持ちを読み取る問題であったが、直接的に書かれていない気持ちを行動などの叙述から読み取る必要があった。文学的な文章を読み取る際には、細かな表現に目を向けるよう指導をしていくことが望ましい。小問ウは、条件を満たして、登場人物の発言の意図を記述する問題であった。正答率は46%と昨年度と比較すると上がっており、内容の条件を満たしているが適切な文章表現となっていないBの誤答を含めると、70%近くの生徒が内容は理解していると考えられる。 今後適切な文章や文にまとめる力をさらに養うためにも、文章から読み取った内容を言葉でまとめる活動などを、授業でも積極的に取り入れていきたい。 (平均正答率 71.0%)	
	(イ)	2	93	1	4 3 1	3 2 1		
	(ウ)	(辻本くんが、)「私」の成績が良いと話題にしたのは、藤山の代わりに詞を書いてほしい(という話をするためだったということ。)	46	7	B C(無答以外)	22 25		
	(エ)	1	84	3	4 2 3	9 3 1		
	(オ)	3	64	3	4 1 2	14 11 8		

大問	小問	正答	正答率	無答率	主な誤答	(%)	授業改善への手だて
5	(ア)	2	91	1	1 3 4	5 2 1	大問5は説明的な文章の読み取りであった。文章の内容が昨年度と比較すると理解しやすかったのか、正答率は決して高くはないが、昨年度より概ね上がっている。小問イは、段落相互の関係を手がかりにして文のつながりを問う問題であった。誤答として多かったcは直後の文だけを見た結果であると考えられる。段落という少し大きなまとまりで内容を把握する活動を、説明的な文章の授業では多く取り入れる必要がある。小問ウは、条件を満たして記述する問題であったが、大問4の小問ウよりも正答率が高い結果となった。Bの中には、答えるべき内容を理解しているものの、助詞の使い方が不相当であることや主述の不一致によって適切な文章表現となっていないものが少なからず見られた。日頃の作文指導においても意識していく必要がある。小問エは、傍線部の直後に書かれた具体例を抽象化する必要がある問題であった。段落で読むだけでなく、論理の展開を丁寧に捉える活動を積極的に取り入れていきたい。 (平均正答率 69.5%)
	(イ)	b	62	2	c a d	18 15 3	
	(ウ)	(筆者は、生け花における花を、)まわりの空間と敵対するものではなく、互いに引き立てあうものである(ととらえている。)	52	12	B C(無答以外)	21 15	
	(エ)	1	63	1	3 2 4	17 10 9	
	(オ)	3	84	1	4 1 2	6 5 4	
	(カ)	4	65	1	3 2 1	17 12 5	
6	(ア)	いられたり	70	2	みられたり ぬられたり えられたり など	15 6 7	大問6は古典の読解であった。現代文の問題と比較すると、平均正答率はかなり低い。小問ア「る」を現代仮名遣いにする問題であるが、正答率は70%であった。歴史的仮名遣いについて、繰り返し確認し、定着させる必要がある。小問ウは、地の文と会話文の識別であるが、「」がすでについているところを解答するなど、出題の意図を分かていない解答が多く見られた。古文の会話文の特徴について改めて確認をさせたい。小問オは、盗人が盗まずに終わった物語の展開を丁寧に読む必要があった。授業の中でも、古典に親しみをもって読めるような活動を展開していきたい。 (平均正答率 45.8%)
	(イ)	4	51	1	2 3 1	27 19 2	
	(ウ)	悪し ~ けり	34	9	これ〜らむ しば〜けり それ〜給へ など	9 9 39	
	(エ)	1	46	0	2 3 4	24 22 8	
	(オ)	2	28	1	1 3 4	42 24 5	

## V 全体の考察と今後に向けて

### 1 全体の考察

各学年とも昨年度とほぼ同程度の問題量で、時間的にも概ね適切であったと思われる。また、例年と同様に、「知識・技能」と「思考・判断・表現」に分類し問題を出題した。

<各学年の平均正答率>

	知識・技能	思考・判断・表現
1 学年	76.4% (74.0%)	75.2% (66.3%)
2 学年	69.8% (64.9%)	60.4% (69.4%)
3 学年	72.8% (69.9%)	68.5% (64.3%)

※ ( ) の数値は、昨年度の各学年の平均正答率である。

また、問題の内容ごとの平均正答率を比較してみると、

	漢字の 読み	漢字の 書き	言葉の 知識	書写	話す 聞く	韻文	文学的 な文章	説明的 な文章	古典	記述式 問題
1 学年	91.2% (95.2%)	73.2% (57.0%)	71.6% (69.6%)	54.5% (56.5%)	85.0%	80.5% (58.7%)	77.8% (75.2%)	64.5% (62.2%)		
2 学年	96.2% (82.4%)	45.9% (55.2%)	62.6% (47.3%)		59.3%	64.0% (80.1%)	64.1% (67.7%)	67.7% (72.0%)	52.2% (46.0%)	40.0% (58.0%)
3 学年	84.8% (78.8%)	65.8% (70.4%)	65.3% (69.3%)		86.0%	75.8% (65.6%)	71.0% (63.7%)	69.5% (58.8%)	45.8% (50.0%)	

※ ( ) の数値は、昨年度の各学年の平均正答率である。

昨年度の平均正答率と比較をし、高い項目「○」、低い項目「●」については次のとおりである。

- 2・3 学年の「漢字の読み」の平均正答率が向上した。
- 1 学年の「韻文」の平均正答率が昨年度より約 22 ポイント上昇した。
- 2 学年の「古典」の平均正答率が昨年度より約 6 ポイント上昇した。
- 1・3 学年の「説明的な文章」についての平均正答率が上昇した。
- 2 学年の「韻文（短歌）」の平均正答率が約 16 ポイント下がった。昨年度までの内容とは異なり、短歌の情景や内容を把握しにくかったことがわかる。
- 昨年度に引き続き、古典に関する平均正答率が 5 割程度であり、古典に関する基礎・基本を身に付けさせることや継続して古典に触れる環境づくりが求められる。

これらの成果や課題を踏まえ、生徒が国語の学習を通じてしっかりとした基礎・基本の充実を実現していくことが求められる。また、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、考えを形成し、深める力を身に付けるうえで、思考を深めたり活性化させたりしていくための語彙を豊かにすることも必要である。今後も生徒が深い学びを積み重ねていくことができる学習活動・授業展開を目指し、授業改善を行なっていきたい。

新学習指導要領における国語科の目標では「社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする」「社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う」「言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う」が示されている。このような目標の実現を



目指し、授業での関わりを大切にしながら、生徒を豊かな言葉の使い手として育成していくことが大切である。

## 2 出題内容ごとの考察

### (1) 言語事項

漢字の読みについては、1学年の平均正答率が90%を超え、使用頻度の高い語句については、正しく読む力が定着していると捉えられる。しかし、1学年の「尊厳(そんげん)」、3学年の「佳境(かきょう)」や「携(わる)」は、正答率が70%台と決して高くなかった。いずれも、実生活において触れることが少ないものであったようだ。日々の授業の中で、辞書を手元に置いて正しい読み方を調べる習慣が大切である。また、熟語そのものだけでなく、その用例について例文に触れることをはじめ、日頃から言語感覚を養っていくことも大切である。

漢字の書きについては、読み比べ正答率が低く、正答率が50%未満だったのが2学年「精算(せいさん)」、「規制(きせい)」、「務(める)」である。また、1学年「束(ねる)」の無答率は23%、2学年の「規制(きせい)」の無答率は34%、3学年の「簡易(かんい)」の無答率は20%と課題がみられた。書きの平均正答率は、1学年が73.2%、2学年が45.9%、3学年が65.8%と読みの平均正答率と比べて大幅に低く、昨年同様、書きに関する苦手意識を読みとることができる。さらに、2学年の「務(める)」、3学年の「映(す)」については別の同訓異字を書く生徒が多く、日頃から場面や状況にあった漢字を正しく書く指導の充実を図る必要があると感じる。言葉に関する知識を問う設問については、1学年は文法(文節/文の数)、漢字の部分の呼び名、2学年は文法(単語/文の成分)、類義語、3学年は同訓異字語、文法(助動詞/連体詞と形容動詞の識別)を出題した。また、2学年の文法の問題(単語の数)(46%)は昨年度より11ポイント正答率が上がり、類義語の問題(78%)では昨年度より56ポイントも正答率が上がった。

書写は1学年のみの出題で、筆順および硬筆での行の整え方の出題であった。筆順の正答率は27%と昨年同様に低かった。筆順の基本的な考え方については、改めて書写の時間にも確認すべきであるといえる。

### (2) 話す・聞く

本年度から聞き取り問題に代わり、話し合いの一部から「話す・聞く」に関する問題を設けた。昨年度まで音声を通して行っていた話し合いの一部を文章にし、話し合いの進め方や流れを的確に捉えられるかという視点で出題した。各学年の平均正答率は、1学年が85.0%、2学年が59.3%、3学年が86.0%である。1・3学年の正答率は昨年同様に高く、正確に情報を把握する力は身に付いていると言える。2学年は昨年度より13ポイントほど低下した。さらに、1・2学年では「話し合いの進め方」に関する小問アの正答率が66%(1学年)、50%(2学年)と、他の設問と比べて低かった。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大を受け、授業スタイルの変化が求められた。今後は、授業での関わりから育む「話す・聞く」の力に加え、ICTを活用した「話すこと・聞くこと」の力を養う新たなスタイルの授業等を考えていく必要もある。

### (3) 韻文(詩・短歌・俳句)

1学年は「詩」、2学年は「短歌」、3学年は「俳句」という形は従来どおりである。全学年とも、韻文とそれを鑑賞する内容や表現などを読み取る力について問われた。また、ここ数年は作問委員が創作した短歌から出題していたが、今年度は過去に出題した短歌も含め情景が想像しやすい短歌を選定した。

結果を見ると、2学年の短歌については、平均正答率が約64%と昨年度より16ポイントほど低下

した。一方、1学年の詩に関しては、平均正答率が80.5%と昨年度よりも22ポイントほど上がった。小問アの平均正答率が73%、小問イの正答率は73%と詩を読むうえで中心となる部分を概ね読めていることがわかる。さらに、小問エの正答率が85%と多くの生徒が詩の情景をイメージし、適切に詩を鑑賞できていることがわかる。今後たくさんの詩に触れる機会を増やして、詩の中の言葉に着目し、表現の特徴や効果を感じ取る力を養っていくことが求められる。

#### (4) 文学的な文章

例年どおり、同世代（中学生または、中学生に近い年齢の人物）が複数登場し、生徒にとって共感しやすく、続きが読みたくなるような作品を選んだ。その結果、1学年の平均正答率が約77%、3学年が約71%と昨年度の平均正答率を上回った。これは身近な題材であるのに加え、日頃の授業での根拠のある読み取りの成果とも考えられる。

今年度の課題としては、1学年の大問5のウの平均正答率48%、2学年の大問4のウの平均正答率18%、3学年の大問4のウの平均正答率46%と、文章から読み取った内容を設問に応じて文章で書くことに苦戦していることがあげられる。やはり、日常的に根拠のある読み取りを継続していくとともに、読み取ったことや本文から学び得たことを文章にする、その文章にしたものを伝え合い、吟味や検討をすることなどが必要であると考えられる。

新型コロナウイルス感染拡大のため班活動やグループワークに配慮が必要な中ではあるものの、ICT活用等の様々な工夫をしながら、今後も、考えをわかりやすく適切にまとめて伝え合い、それを通して互いに読みを深め合うことを大切にしたい授業を積み重ねていくことが求められる。

#### (5) 説明的な文章

全学年の正答率は、1学年が64.5%、2学年が67.7%、3学年が69.5%と各学年でのばらつきがあった。これは、問題文の難易度や概念的な文章か否かが影響していると思われる。

1学年の「＜自分らしさ＞って何だろう？ 自分と向き合う心理学」の文章では、心理学や自分についてより深く考える内容であり、生徒自身が自分自身に置き換えながら読みやすかったと考えられる。2学年の「敗者の生命史 38億年」の文章では、昆虫と植物の関係性が書かれており、理科の分野で同様のことをすでに学んでいる内容であったが、説明的な文章の読解という視点では課題がみられた。3学年の「和の思想」の文章は、空間的、時間的、心理的な「間」について読み手に伝える内容であり、日常で意識する人が少ない事柄を改めて考えさせるものであった。

各設問を見てみると、1学年の小問イ（文の挿入）が正答率47%、3学年の小問イ（文の挿入）が正答率62%と比較的低かった。これらはいずれも、段落や文がどのようにつながるのかを判断する問題である。改めて、説明文では段落のまとまりを意識したり、接続する語句に着目したりしながら読んでいく必要性が感じられる結果であった。

文学的な文章の大問と同様、例年の課題である「読む力」を問う問題としての記述式問題は、正答率の点においては改善が見られた。1学年の小問オの平均正答率は64%、3学年の小問ウの平均正答率は52%であるとともに、この問いに対する無答率が1学年は8%、3学年が12%で、昨年度より下がった。このことから、題材の適切さ、読みやすさとともに、出題の意図が生徒にしっかりと伝わったことがうかがえる。今後も説明的な文章においては、文章に即して考えることを徹底させ、文章のどの部分が問われているのかを的確に把握できるよう指導を継続して行うことが大切である。

#### (6) 古典

平均正答率は、2学年が52.2%、3学年が45.8%であった。昨年度に比べ、2学年では約6ポイント上がり、3学年では約4ポイント下がった。特に、今年度も2学年、3学年ともに、会話文を識別する問題において正答率が低かった。地の文と会話文の区別は古文を読むうえで重要であり、会話文の直後にある「～といふ」「～とて」を理解する必要があるなど、今後への課題が依然として残った。

また、3学年の小問才は、話の内容として最もよいものを選ぶ問題であるが、正答率は3割に満たなかった。「盗人に物を盗まれた」「最後は盗まれたものが返された」という大まかな内容は理解できているが、一つ一つの動作の主語が誰にあたるのか、誰のセリフなのかを正確に判別できていないため、間違った読み取りをしてしまったと考えられる。そして、「盗まれたものに執着しない」という尼上の心情まで読み取ることができなかった可能性が高い。

現代文、古文を問わず、文章を読むうえで主語の判別はとても重要である。動作、会話、敬語、文のつながりなどを総合的に考える力が必要になってくるので、多くの古典に触れて主語の省略や助詞の省略に慣れ、人物の行動や様子を捉える読み取りができるよう指導の工夫を図ることが必要である。

#### (7) 記述式問題

平成28年度より2学年において「書く力」を問うために、記述式の問題を出題している。昨年度と比較をすると、平均正答率は約18ポイント低下した。今年度も「国語に関する世論調査」のデータを読み取り文章を書くという、昨年度までの出題と類似したものであった。しかし、昨年度の問題には段落の指定はなかったが、今年度は一段落目に「グラフから分かること」、二段落目に「前の段落で書いたことと関連づけて、自分の場合はどのような手段・方法をとるか、その理由も含めて書く」という条件を設けたため、難易度が上がったと考えられる。無答率は約15%であり、昨年と同程度の結果であった。また、約2割は条件を満たし解答することはできているが文章表現として適切な表現ができていなかった。

## 3 経過観察およびその考察

学年	経年変化の視点	趣旨	実施年度			考察
			H29	R1	R2	
第1学年	言葉の単位の理解	知・技	H29	R1	R2	H29、R1、R2ともに一文中の文節の数を答える設問である。R1は誤答の要因として「一緒にみた」を一文節と捉えてしまったことが考えられたが、今年度は文節の単位で捉えにくい「学年にむけての」の部分も二文節と正しく捉えられた生徒が多かった。言葉の単位を理解することは、話や文章等、長い言葉のまとまりの理解につながる。言葉やそのまとまりに着目した授業をすることが今後も大切である。
			問2(ウ)	問2(ウ)	問1(エ)	
			86%	58%	84%	
登場人物の人物像を捉える (文学的な文章)	思・判・表	H29	R1	R2	登場人物の人物像を答える設問である。H29、R1と同程度の正答率であった。文章自体の読みやすさや難易度の影響も考えられるものの、同様の出題であるH27の正答率が86%であったことを考えると、改めて授業を振り返り、見直す必要性が感じられる。一つの叙述だけでなく複数の叙述や場面を関連付けて考えること、「言葉による見方・考え方」を働かせながら読むことを更に意識させていきたい。	
			問5(ク)	問5(キ)		問5(カ)
			79%	77%		78%
文のつながりの理解(説明的な文章)	思・判・表	H30	R1	R2	2つの空欄に入る接続語の組合せを答える設問である。R1は「しかし」を入れるべき欄に「だから」を入れる選択肢を選んだ誤答が約30%あったが、今年度は誤答も含めると、逆接の接続語を入れるべき欄に「しかし」か「でも」が入ると答えた解答が8割を超えた。しかし、「さらに」を入れるべき欄に「ところで」という話題を転換する接続語を入れた誤答が18%あった。経年で見ると正答率は高くなっているが、段落相互の関係や文章の展開を的確に捉えられるよう指導の工夫を更に図りたい。	
			問6(イ)	問6(ア)		問6(ア)
			36%	49%		68%
第2学年	文章を的確に読み取り条件を満たして記述する(文学的な文章)	思・判・表	H30	R1	R2	文学的な文章の内容を捉え、条件に即して記述する設問である。R1では正答率が高まった要因として、登場人物の立場の明確さや心情を捉えやすい会話表現を挙げた。今年度は「昔は静香と同じように」につなげて解答する設問であったが、その「静香」の現状を文章から捉えることが難しく、そのため「その人」の状況の変化を捉えて記述することも難しかったと推察される。設問についても研究を重ねていきたい。指導の工夫としては、読み取った内容を文や文章で表し、それが適切であるか検討する活動を授業に取り入れること等が考えられる。
			問4(エ)	問4(カ)	問4(ウ)	
			45%	81%	18%	
	文のつながりの理解(説明的な文章)	思・判・表	H30	R1	R2	抜き出された一文が、文章中のどこに入るかを答える設問である。3年間の経年で見ても正答率は50%~60%であり、文章全体を捉える中で、文や段落の文章中での「たつきや、前後の文や段落相互のつながり」を考慮することに課題があると言える。授業では、事実と意見や、文章全体と部分との関係などを読み分けながら内容を理解していくことができるよう、指導の工夫が必要である。
				問5(ア)	問5(ア)	
歴史的仮名遣いの理解	知・技	H30	R1	R2	H30は「ちひさき」、R1は「あひぬ」、R2は「つかひければ」の出題で、いずれも「ひ」という歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す設問である。今年度も誤答としては仮名遣いを直すのではなく現代語訳を答えているものが多かった。正答率に変動が見られるので、今後も注意して見ていくとともに、問題の意図を理解することや、歴史的仮名遣いの理解を深めることについて引き続き指導していきたい。	
			問6(ア)	問6(イ)		問6(イ)
資料をもとに、立場を明確にして自分の考えを記述する	思・判・表	H30	R1	R2	H30は「手書き文字の大切さ」、R1は「図書委員として伝える読書のよさ」、R2は「最も親しい人に自分の本音を伝えやすい手段・方法」をテーマにした出題であった。自分の意見だけを書いている誤答やアンケート結果の分析をしているだけの誤答が見られ、問われている内容を十分理解しないまま書いている生徒がいることがわかる。一方、無答率については、H30が32%、R1が16%、R2は15%となっている。諦めずに取り組む姿勢を認める声かけなどを大切にしながら、今後も学習に粘り強く取り組む意欲を育てていきたい。	
			問7	問7		問7
第3学年	文章を的確に読み取り条件を満たして記述する(文学的な文章)	思・判・表	H30	R1	R2	文学的な文章の内容を捉え、条件に即して記述する設問である。今年度の設問は、会話が続く中で登場人物のせりふとして表現されている内容を、条件に即してまとめて記述することが求められた。正答率はH28からの5年間で最も高かった。今後も引き続き、複数の叙述を関連させて内容を把握すること、読み取った内容を文章中の言葉や自分の言葉を用いて適切に表すことを大切にしていきたい。
			問4(ク)	問4(オ)	問4(ウ)	
			35%	17%	46%	
	文章を的確に読み取り条件を満たして記述する(説明的な文章)	思・判・表	H30	R1	R2	同様の形式で出題されたH29からの4年間で最も高い正答率であった。しかし、答えるべき内容を理解していても、助詞の使い方や主語・述語の関係等、適切な文章表現となっていないものが少なからず見られた。内容を理解することについての学習とともに、書くことの学習において自らの書いた文章の適切さを見直すことにもしっかりと取り組ませたい。また、様々な文章を読むことを通して、適切な助詞の使い方や主語・述語の関係を理解し、身に付けていくことも必要である。
				問5(カ)	問5(キ)	
歴史的仮名遣いの理解	知・技	H30	R1	R2	H30は「きはめて」、R1は「やうやう」、R2は「あられたり」という歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す設問であった。正答率は70%で2年生の時と比べると8%上がっているが、過去2年間と比べると低い。誤答としては「みられたり」が多かった。H30の「は」や今年度の「あ」の歴史的仮名遣いは1年生の「竹取物語」、R1の「やうやう」は2年生の「枕草子」の教材に出てきているが、古語として印象が強い「やうやう」や、古文を読む際に触れることが多い「は行」の歴史的仮名遣いに比べると、「あ」については理解が定着しづらくことが考えられる。様々な歴史的仮名遣いについて古文を読む中で繰り返し確認し、定着を図ることが必要である。	
			問6(イ)	問6(イ)		問6(ア)
93%	87%	70%				

## 4 今後に向けて

### (1) 話すこと・聞くこと

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、授業では「話すこと・聞くこと」に関する活動が昨年度までのように行えない場面が多かったが、形態や時間の長さ、人数等、配慮しながら授業を行ってきた。「話すこと・聞くこと」の授業では、やはり、説明や紹介、話し合いなどの言語活動を通して、目的や相手に応じてわかりやすく伝えるための工夫をし、伝えるべき内容を取捨選択し、的確に相手に情報を伝えることが大切である。また、それらをより充実させるためには、自分が発言するだけでなく、相手の言葉に耳を傾け、伝えたいことを的確にくみ取ることが重要である。また、より実践的な「話すこと・聞くこと」に関する力を育てていくためには、的確に情報を聞きとり、相手を意識して伝える工夫を、国語の授業とともに、それ以外の場面でも継続的・日常的に行っていくことが大切である。さらに、ICTを効果的に活用した「話すこと・聞くこと」の新たな授業展開を模索する等、様々な状況に対応した学びを工夫していきたい。

今後も、自分と相手との関わりを意識した言語活動を設定し、実践を積み重ねることで、新学習指導要領の国語科の目標の一つである「社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め」ることが大切である。

### (2) 書くこと

今年度の調査で出題した記述式問題のうち、2学年の大問7以外は「読む力」を問う問題である。日頃の授業では、説明的な文章を要約する活動、自分の考えや意見を伝えるために書き表す活動等、様々な「書くこと」の学習が行われている。その際、自分が書いた文章を読み直し、より伝わりやすく適切な表現を探す。そして、自らが書いた文章を推敲し、他の生徒のアドバイスを生かしながら、よりよい文章を書く習慣をつける活動を授業でも取り入れていきたい。目的や相手を意識した「書く」活動を通して表現力の向上を図るとともに、論理的な表現力を養えるような学習活動や指導の工夫が大切である。

そのためには、書くことへの苦手意識の克服が重要になる。比較的短い文章を日常的に書くことを習慣化する等、「書いてよかった」「書けた！」と感じられる活動を多く設定したい。また、その際、自分が書いた文章をよりよいものにするために、他の生徒と意見を出し合い、「もう一度見直し、書く」ということを気軽にできる場面づくりも大切にしていきたい。

### (3) 読むこと

文章を読み進める際には、まず文章がどのような構造になっているのか、どのような内容が書かれているのか、この文章の主題は何かを的確に捉え、把握することが大切である。文学的な文章では、場面の展開や登場人物の設定、相互の人間関係、心情の変化などを捉えること。説明的な文章では、中心の部分と付加的な部分、事実と意見との関係、主張と例示との関係などを捉えることが求められる。そのうえで、文学的な文章では登場人物の言動の意味などについて考えたり、説明的な文章では文章と図表を結びつけたりして内容を解釈することなどが、文章を読み深め、理解することにおいて重要である。

授業では、問いに対する答えや根拠となる部分を探すなどの基礎的な「読むこと」の学習を通してその礎を築くとともに、他の生徒と関わることで自分の考えを広げたり、深めたりすることを継続して行うことが大切である。そのような言語活動を通して、他の生徒とともに文章を読み深めたり、読み味わったりすることは、「読むこと」のよさを知り、読む力を身に付けていくために有効である。

また、韻文の授業では、表現技法の学習に加え、言葉の響き、作品に描かれている情緒、季節感や作者の意図などを味わい、韻文だからこそ感じられること、想像できることを大切にしながら、韻文

に対する関心や理解を深められるような授業づくりが重要である。

「読むこと」に関する活動は、国語の学習活動において根幹ともいえる部分である。様々な文章、詩、短歌、俳句などに触れ、生徒自身の感性を磨き、「言葉で伝え合うこと」への理解を深めていきたい。そして、その可能性をいっそう高めるきっかけをつくれるのは指導者である。現在、新型コロナウイルス感染拡大のため、班活動やグループワークを行うには今まで以上に様々な配慮が必要であるが、ICTの活用をはじめ、新たな「互いに読解力を高め合う」授業展開を工夫し、生徒自身が国語の魅力に気づくきっかけとして大切にしていきたい。